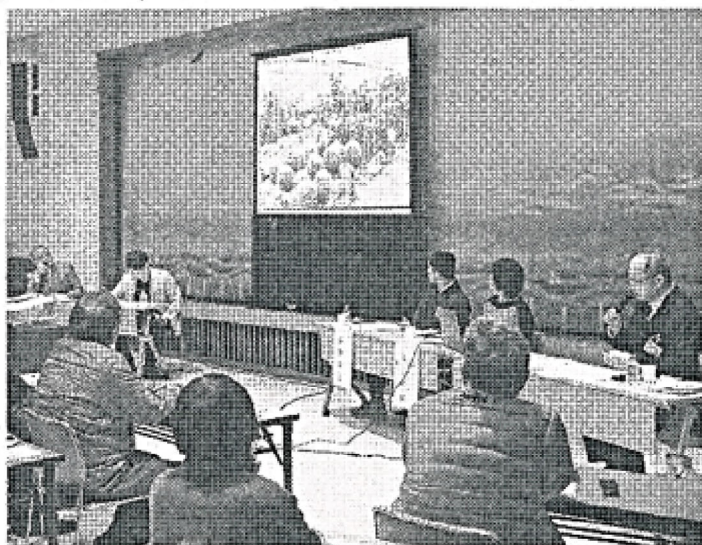


春日井市の特産品「春日井サボテン」を活用した地域ブランド事業を強化するため、同市や春日井商工会議所、中部大学などが5日、同市烏居松町の同会議所で「春日井サボテンサミット」(中部経済新聞社など後援)を開いた。市内の生産、加工・販売業者ら約120人が出席。サボテンの事業化などで意見を交わした。(春日井)

同市は食用の実生(みじょう)サボテンで、全国トップレベルの生産量を誇る。1999年度から市内の事業者がサボテンを使った商品の開発・販売などを開始。2006年2月から「春日井サボテンプロジェクト」を立ち上げた。08年度からは市の補助金を

春日井でサボテンサミット開催



関係者が出席して今後の取り組みなどについて意見を交わした

地域ブランド事業強化へ

サボテンの 効能など 研究内容を発信

受けて食品や化粧品、雑貨などの商品開発や「サボテンのまち」を全国にPRするなど、ブランド構築を進めている。サミットでは同サボテンの

市内でサボテンを生産する後藤サボテン社長の後藤容充氏、関連商品のアンテナショップを運営するシェイ・エヌ・エス取締役の出口美紀氏、



あいさつする松尾会頭

会場では、名城大学農学部教授の小原章裕氏と中部大学応用生物学部助教の堀部貴紀氏が講演。その後、行われたパネルディスカッションでは

同サミット実行委員会委員長で同会議所副会頭の-water野隆氏らが参加して、「春日井サボテン産業のこれから」をテーマに語り合った。同実行委員会会長で同会議所の松尾隆徳会頭は「春日井サボテンの知名度は全国に浸透しているが、事業化という点では疑問がある。顧客に喜んでもらえる商品やサービスを提供し、市場に定着させることが必要。春日井に大きな需要を生むため、皆さんと一緒に前進していきたい」とあいさつした。また、伊藤太市長は「10年間の取り組みにより『春日井はサボテンのまち』というブランドが全国に認識されている。サミットを先に進める機会にしてほしい」と話した。